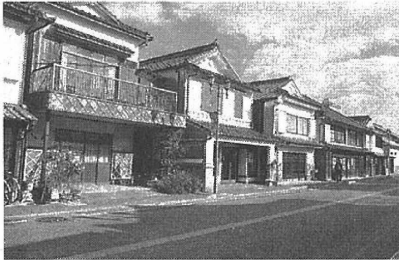


福岡県の南東部に位置し、西は久留米市、東は大分県日田市と接する位置にうきは市がある。当市は地形的には、南に耳納連山を抱き、北に筑紫次郎」と称される筑後川が流れている自然に恵まれた地域であり、平坦部は肥沃な水田地帯が広がり、山麓部には観光ふじつ園を含む果樹地帯が形成され、山間部は棚田百連の「つづら棚田」、水源の森百連の「滝のある水源の森（調音の滝公園）」の名所がある。また筑後川沿いには温泉が湧き出る地域もあり、こぢんまりとした温泉街も見られる。

このような自然の観光資源に恵まれたうきは市の平坦部に位置する吉井町に白壁造りの建物が軒を連ねる地域があり、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。メインは吉井町の中心を東西



白壁の店舗兼住宅が連なる

に走る国道210号「筑後街道」沿いに、和菓子、雑貨、

一般財団法人日本不動産研究所[®]
地域資源を生かす
 ～まちづくりからインバウンドまで

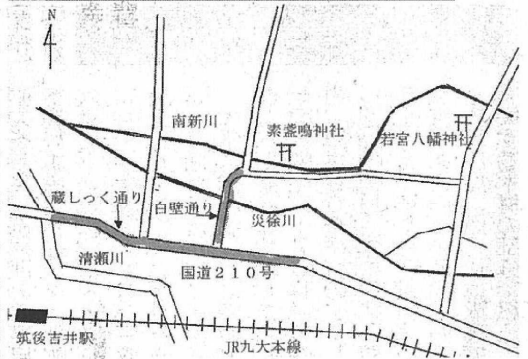
吉井町 豊後街道の宿場町

軒を連ねる地域（蔵しっく通り）であり、散策しながらの買い物も楽しめるエリアとなっている。この通りから一歩北方へ足を踏み入れると、メイン通り程ではないが、また同じ様な白壁の店舗兼住宅が軒を連ねる通り（白壁通り）があり、その他白壁造りの住宅も多く見られる。このメイン通り背後の地域には、災徐川、南新川の2本の河川が流れ、南新川沿いに深紅の楼門が堂々たる姿を見せる素盞鳴神社が鎮座し、これらが白壁の建物と一体となって独特の町並みを形成している。



個性豊かな白壁が続く

吉井町は普段は人通りも少なく、ひっそりとした町である



歴史が息づく白壁造りの町

四季折々の祭りで賑わい

骨董品店など個性豊かな白壁造りの店舗兼住宅、土蔵等が

普段はひっそり

吉井町は江戸時代、周辺農山村の産物の集散地、豊後街道の宿場町として栄えた。江戸中期以降、製油・製蠶・酒造・製粉業を営む豪商たちが成長し、明治2年の大火を契機に、農村地主、豪商たちにより火災に耐えられると供に富を誇示する土蔵造りの町家が建築され、吉井町を特徴づける白壁土蔵造りの町並み形成され、現在に至っている。

が、四季折々に祭り、イベント等開催され、祭りの期間には、町は訪れる人々で賑わっている。祭りの一つに毎年2月上旬～4月上旬までの期間に開催される「筑後吉井おひなさまめぐり」がある。旧家や町在住者が所蔵する江戸時代から現在までの豪華なものから珍しいものまで数多くのおひなさまが、町内の旧家や商店など約20カ所に展示され、白壁の町並みをゆっくり散策して見ることが出来る。また夏になると、「吉井祇

鑑定士・友野和憲

吉井町は都心からの交通アクセスが劣るため、白壁の町並みはインバウンド効果をもたらす程の観光資源とは言えないが、吉井町の人々の思いが込められた歴史的資産として、四季折々の祭りや供に後世に受け継がれていくことであらう。（九州支社、不動産